



地区スローガン

“希望を語ろう”

— We are Rotary, together —

2023～2024年度 国際ロータリー会長 ゴードン R. マツキナリー
2023～2024年度 国際ロータリー第2570地区 ガバナー 高丹秀篤



世界に希望を生み出そう

クラブテーマ 充実した例会に

会 長	坂田 清茂
会長エレクト	斉藤 一英
幹 事	織田 裕之
副 会 長	橋本 和也
//	武正 進介
//	八木 茂幸

参加者の感想

会長 坂田清茂

会長になる前から複数のメンバーから「ベトナムへ連れて行ってよ」と言われていました。

ベトナム工場建設後3年間は赤字経営で、人様にお見せできる状況ではありませんでしたが4年目から黒字化したことや、本庄のメンバーも人手不足で困っておられるようなので少しでも参考になるのならこの企画を織田幹事、須永委員長と2年前から練ってきました。

旅行会社の観光ツアーではなく「坂田だからできた」と言われるような中身の濃いスケジュールになるようにしたつもりです。

ベトナム視察旅行

週報特別版

国際編

日 程	2024年4月9日(火)～4月12日(金)
旅 程	9日(火) 本庄発 ホーチミン 21:55
	10日(水) エスハイ見学・カツデン・クチトンネル 昼食/夕食(ベトナム料理)
	11日(木) メコン川ジャングルクルーズ 昼食・ショッピング・夕食
	12日(金) ホテル発5:30 成田16:00 本庄へ



幹事 織田裕之

坂田会長が本気で取り組んでいる事業ベトナム工場と盟友のレ、ロンソン(エスハイ社長)の卓話は2023-2024年度本庄ロータリー(坂田ストーリー)の象徴的な事業だったと思います。

理事会から現調、そして事業実施にいたるまで須永委員長には大変ご尽力いただきました。ありがとうございました🙏

また、参加されたメンバー、同伴者の皆様お疲れ様でした。
※ベトナムカジノ🎰は300ドルのプラスでした。

国際奉仕委員長 須永秀和

今回のベトナム視察は坂田会長の思い入れを強く感じたイベント。初日の朝レ、ロンソン社長の本拠地であるホーチミンのエスハイ本社を訪ね事業の概要の説明を受けた後、併設の日本語学校の教室にお邪魔し、そこで学ぶ学生さんたちと日本語で交流を持ちました。

「気をつけ礼」の声で20数名の学生が私たちに挨拶をしてくれました。その瞬間私が過去に忘れ去った世界がよみがえりました。こちらからの質問に「はい」と手を挙げて答える様子は会員の皆様にも是非見ていただきたいと思いました。

彼らの一生懸命に伝えようとするその気持ちに心が打たれました。「私は北海道でとび職をします」と答えた若者がいました。思わずうなっていました。

雇用問題に苦しむ私たちの解決策の一つであることは間違いないと思いましたが、受け入れ側がしっかりと準備をしたうえで自社のプログラムに沿って育てていかなければ、と思えました。楽しくて充実した視察旅行でした。心より感謝いたします。

A FUN TRIP TO VIETNAM



真下敏明

皆さん、シンチャオ! ベトナム視察に行ってきました!

今年度は私個人の例会出席率が悪く、その挽回と人材確保に真面目に困っており、何かヒントは無いかと、参加した次第です。

行きと帰りで2日かかりますので、中の2日に目一杯事業が組まれています。1日目に人材の送り出し機関ESUHAIを見学し日本語を学ぶ生徒に会い、次の日はカツデンベトナム工場で実際に働く人たちに会うことが出来ました。また、ESUHAIやカツデンのスタッフの方々の様々な話を聞かせていただくことが出来ました。

「ベトナムの若者は真面目で優秀な子が多い。」「今ベトナムは金融の引き締め策で景気が後退し改めて日本を始め海外で働きたい人が多くいる。国も後押ししている」と教えて頂きました。まさか、景気が悪いとは…建設ストップしたビルもあり、行ってみたいと分からないと、沢山の気づきを得て無事帰国となりました。今回の企画をしていただいた坂田会長、須永委員長を始め関係各位に感謝申し上げます。シンチャオ!



金子 章

国際奉仕委員会の須永委員長や織田幹事が事前下見を行い準備万端!久しぶりの本庄RCの国際的な奉仕活動、ベトナム視察!! 参加者募集の結果は、、参加者13名、その視察団の一員として、ベトナム社会主義共和国を訪問した。

渡航前の打合せ会で、坂田会長の「ベトナムには驚く様な事がある!」と言う話を受け流し、「東南アジアの新興国なんて、何処も似たようなカオスな状況だろう!」といった印象を抱いて渡越した。現地滞在は二日、初日は卓話にご来庄下さったレロンソン氏が代表の研修組織エスハイを訪問し、翌日は坂田会長の現地法人カツデン・ベトナムに伺った。移動中の車窓からの風景や街中の雑踏は、今、経済発展を遂げつつある国の姿で、エネルギーに溢れる多くの人が行き交う様子は、「沸騰するザ・東南アジア!」と言った感でした。

他方、それぞれの訪問先でベトナムの青年達と日本語でのやりとり通して、彼らの態度や振る舞い等から感じた印象は、規範を持って礼儀正しく、勤勉に学び、働く姿勢であり、夢を抱く熱い心の内を垣間見る事ができた。

坂田会長曰くの「驚き」が、この事であったのかは分かりませんが、それは私たち日本人が少し前まで、当たり前のように感じていた姿で、懐かしさを感じると共に今の日本に改めて必要な事ではないかとも思いました。更に付け加えれば、国の根幹を成す教育の重要性とその在り方を考えさせられたベトナム視察となりました。



相川浩一

今回久しぶりの海外渡航でベトナム視察研修に参加いたしました。カツデンベトナム工場とエスハイでの研修が主な目的でしたが印象に残ったのは、日本との活気の違いです。

途切れることのないバイクの列。二人乗り三人乗り。四人乗り! 夜の街、沢山の人出の中露店で元気よく飲食している若者たち。エスハイで出会った学生たちの、実直な姿勢。語られた明確な目的。アメリカをも撤退させた粘り強さ。国として取り組む開発や育成事業。若者たちや、国全体が成長しよう!

サクセスしようという力を大いに感じる事が出来ました。少子高齢化社会の日本で、お互いの得意分野で協力し合い、お互いが成長する可能性は無限にあると感じます。日本にないキラキラ感を感じた旅となりました。



五十嵐敦子

ひとつ飛び! ベトナム・ホーチミン到着。深夜の空港は高温多湿30°C越え。近代的な建物が建ち並び、活気あふれる都市だが貧しさがいたる所に目についた。昭和30年代の日本を想わせる。明るさとしたたかさを含ませ持っているかの人の表情。市街を走る私たちのバスはバイクとの競争。アリの大群に囲まれたような感覚。「交通ルールはないのかなあ?」

クチトンネル遺跡見学は強烈だった。地面深くにトンネルが有る。多くの階段、全長250km以上の蜘蛛の巣のようなトンネル施設。実際にトンネルの中に潜ってみた。中腰で移動しながら、当時の苦労がしのばれた。とにかく暑かった、汗びっしょり。

何故、近代兵器を備えたアメリカ軍が負けたのか分かったような気がした。ベトナムは、これからどんどんと進化していき、幸せが生まれていく国だとあらためて感じた旅だった。



櫻井祐治

ベトナム視察旅行を終え、下見、段取り等、須永委員長大変お疲れ様でした。本当に有意義な時間を過ごすことができました。日本人より日本人らしいベトナム学生の姿や教員の情熱に感銘を受けた日本学校、坂田会長のベトナム工場でも、ベトナム進出の経緯や業績が軌道に乗るまでの話から、現地視察して初めてその重みや苦労を知ることができ、自身も大変刺激になりました。また、ベトナム戦争跡地見学や、豪華客船での食事、カジノでの織田幹事にルールも教えてもらえずに大敗した夜もすべて楽しむことができました。本当にありがとうございました。

長谷川京子

ベトナム2日目の朝、移動するバスの窓の外を見てビックリ!!
なんだこのバイクの多さは〜! 信号はないのも同然、3人4人バイクに乗って走るのが当たり前〜ワオ〜。

エスハイ社での日本を学ぶ生きるエネルギーが溢れるベトナムの若者達に感動。

カツデンベトナム社は大変なことも乗り越えここまで来た現場で暑い中皆さん一生懸命仕事をされていました。

クテのトンネルでは暗く、狭く、暑く戦争の狂気を体感するかのような、正に想像を絶する…そのひと言しかありませんでした。

クルーズは最高に気持ち良かったです。ベトナム料理のどんなメニューも美味しくいただきました。思い出に残るベトナム視察旅行でした。

次は世界大会!! GOGO!! シンガポール!!



渋澤健司

ベトナム視察報告を2件致します。1つめは、カツデンベトナム工場さんへの視察見学の報告です。工場では、デスクでパソコンに向かい仕事をしているスタッフの方々に内容を聞いたところ、日本で受注した階段の図面を書いているということでした。日本の受注製品の設計書はベトナムで作成し日本の工場に製品にするということに驚かされました。2つ目はESUHAJの日本語学校さんへ訪問した報告です。入り口に二宮金次郎の大理石像があり『日本人の学びの心を大切にす姿勢』を感じました。教室では生徒さんの元気良い挨拶から始まり、日本に何の為に来て仕事をするのか数名の生徒に聴くと明確な答えが返ってきたことに、とても感心いたしました。

壁にはKAIZEN姿勢七か条

- ①自分から挨拶する。
 - ②自分から返事・反応する。
 - ③まず謝る。
 - ④「わかる・わからない」を伝えられる。
 - ⑤時間・約束を守る。
 - ⑥自分から報告・連絡・相談できる。
 - ⑦感謝の気持をもつ。
- が掲げられていました。今の日本人の若者が失かかっているものがまさしくここにはあると感じました。

事務局 小林真紀子

坂田会長がベトナム工場を建てている約10年前、週に一度英語を一年間レッスンしました。英会話のレッスンなので一時間話さなければなりません。ベトナム工場について一週一週ごとの出来事や下した決断、偶然うまくいった事などを聞きました。

その時の坂田会長はうまくいかなかった事に対しては「めげない、めげない」と日本語で言っていました。私からの質問に対しては「わからない、まだやったことないから」「さあ、知らない」と答える事が多く、わたしは(機密だから言えないのかなあ?) (英語で言うのが面倒くさいのかなあ?) (せっかくレッスンしてるのになあ…))とっていました。

今回の旅行でカツデンの田上さんのお話を伺い、ほんとに当時わからなかったんだと知り驚きました。実際訪れて、工場建設の歩みを疑似体験させていただいた様に感じます。

エスハイでの日本の企業で働くことを夢見る生徒さん達の目の輝きと、カツデンのCADセンターは、今回特に印象に残っています。日本で足りないことベトナムで足りないこと、それを埋め、結ぶことに生き生きと取り組んでいるエスハイの社員さんやカツデンの社員さんと話せて大変有意義な旅行となりました。





あとがき

あとがきにかけて ～記憶の中のベトナム～



ベトナム訪問についてのレポートを書かされ、何故か更にあとがきを書く、お役目まで頂いた。そこで昨夜、G.W期間中と言う事も有り、何十年ぶりにベトナム戦争を描いた映画「プラトーン」1987年製作を観た。今回のベトナムでの訪問先にその戦争当時、ベトナム解放戦線、ベトコンがゲリラ戦を展開し、泥沼の様な戦場にもなった地下要塞のクチトンネルがあった。現在は戦蹟として観光地と成っている。施設内には、実弾を撃てる射撃場もあり、観光客が放つ銃声がジャングル中に大音量で響いていた。私はセンシティブと言うより、むしろその逆だと思っておりますが、その場に居ても立っても居られない、もやっとし

た気持ちに成ってしまった。

帰国後、その時の感情が何だったのか、少し解かった様な気がします。それは、私が少年から青年と育つ多感な時、1965～1975年は、ベトナム戦争が続いていた時代であり、テレビや新聞を通して多くの情報が目や耳から入っていた気がします。今の時代、そんな忘れ掛けていた記憶をPC等で検索すれば、見た事のある沢山の映像が映し出され、再び確かな記憶として、上書きされます。同様に、且つて見聞きをしたが、今では頭の片隅にあった記憶が、現地に行った事で何処かで繋がった様な気がしています。そんな記憶と現代社会へのメッセージを表現したアート作品で締め括ります。お疲れさまでした。

